

ペーテル麻機部会に所属するアイエイアイでは、県立中央特別支援学校と連携しミニロボットの組み立てを行い県立こども病院に入院している子供たちへの寄贈や、組み立て方や遊び方を学校で教える出前授業に取り組んでいます。

平成 26 年 12 月 17 日（静岡新聞朝刊掲載）

平成 27 年 1 月 1 日（静岡新聞朝刊掲載）



### ミニロボット組み立て

中央特別支援学校生 入院中の子どもたちのため

県立中央特別支援学校（静岡市葵区）高等部総務課の生徒が16日、県立こども病院同区に入院している子どもたちのために寄贈されたミニサッカーロボットの組み立てを手伝った。

産業用ロボットメーカー・アイエイアイが11月、同病院の入院児童向けに贈った12台のうちの日台。製作には直径約2cmのネジ100本以上を使い、5時間ほど掛かる。児童が全て作るには難しいため、2、3年生5人が

作業学習の一環として、同社の社員3人に1人1台を使ったサッカーゲームを教える。ミニロボットは高さ約15cm、卓球台ほどの大きさのコートで遊ぶ。完成した6台は来月にも同病院に届けるとしている。

### ミニロボ普及へ推進室

#### アイエイアイ専任社員が出前授業

産業用ロボットメーカーのアイエイアイ（本社・静岡市清水区）は自社開発の子ども向け組み立て式小型サッカーロボット「ミニロボ」の普及を目指し、ミニロボ事業推進室をこのほど社内にて設けた。製品は根拠のある開発部門出身者もいる。

完成後は改造なども可能。子どもの理科室で離れ抑止に貢献したい考えが背景にある。同室には専任の社員を3人配置した。組み立て方や遊び方を学校などで教える出前授業を行うほか、イベントへの出展なども担当。開発部門出身者もいる。

子どもから直接ニーズを聞き取り、より良い商品開発にもつなげる。販売は同社を含む市内の企業4社でつくるミニロボ有限責任事業組合が担当。

ミニロボは無線操作式で、ドリブルやシュートなど多様な機能を持つ。ドリフト走行が



ミニロボで遊ぶ県立中央特別支援学校の生徒—静岡市葵区